

36 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力(7) 家康と船橋(7)

—家康の側近 成瀬家の菩提寺 宝成寺—

29期 仲田 元昭

JR西船橋駅より北へ徒歩10分程、市内の下総台地の西側（東京側）にある、船橋で唯一の大名栗原藩主 成瀬家の菩提寺である宝成寺をご案内します。

「宝成寺」

宝成寺は曹洞宗の禅寺で、創建は440年程前の天正年間といわれ、本尊は宝冠釈迦如来です。

本堂は平成20年(2008)に落慶し、前本堂は五代犬山城主成瀬隼人正泰が330年程前天明9年(1789)に建立したものです。

「船橋で最初の大名 成瀬正成」

徳川家康は江戸入府に際し、小牧・長久手の戦いや関ヶ原の戦いで軍功のあった側近の成瀬正成に下総国葛飾郡栗原郷に4千石と江戸城内に上屋敷を与えました。

栗原郷領地内の法城寺の法を宝とし、城を成瀬の成に替え菩提寺宝成寺としました。その後、家康の九男義直が尾張藩徳川家創設に際し正成は付家老となり、後に尾張犬山城初代城主となりました。正成は寛永2年(1625)59歳で没すると、犬山城主は長男正虎が継ぎましたが、正成は生前、次男之成に栗原郷他1万4千石を譲っていたので、之成が栗原藩の二代目となりました。

その後、栗原藩は無嗣により三代で断絶しましたが、宝成寺は江戸における成瀬家の菩提寺とされていたため、栗原藩成瀬家が断絶後も一族の墓が営まれ明治9年(1876)までの墓碑等が残されています。台座を除いた高さ約3.6m幅90cmは県内最大級の墓石は、市の文化財史跡に指定されています。

(参考図書:船橋のあゆみ他)「37 我が街 船橋を歩く 船橋の魅力(8)」に続く「2023-12-1 寄稿」



家康の側近 成瀬家の菩提寺 宝成寺 本堂



犬山城(国宝)城主 成瀬正成(下総国葛飾郡栗原藩主)



成瀬家墓所 右:犬山城七代城主 成瀬正壽 県最大の墓